

# グリーンサークル 50号

クローズアップ

活動団体紹介

講座イベント紹介

多摩市みどりのかわら版

赤羽 誠

豊ヶ丘の杜保全の会

中央図書館樹木観察ワークショップ

立花 岳史

～クローズアップ～



ワルナスビ

## 本多静六と鉄道林

多摩市グリーンボランティア連絡会 ぽんぽこ鉄道倶楽部 赤羽 誠

日頃から、グリーンボランティア活動やグリーンライブセンターの運営ではお世話になっています。私は雑木林の保全活動や里山の活動を行っていますが、鉄道関係の趣味も持っていて乗り鉄・撮り鉄・模型鉄・きっぷ鉄など鉄道で広く趣味活動を行っています。鉄道趣味は小さいころからのもので、樹木との関係は考えていませんでしたが、里山の活動を始めてから、鉄道は自然との関係も深く、「鉄道林」を始めとして森林と深く関わっていることに気が付き、日本全国の「鉄道林」を見て回るようになってしまいました。

日本の鉄道林を調べていくと「本多静六(1866-1952)」という人物にたどり着きます。本多静六氏は日比谷公園を設計したことでも知られていて日本の「公園の父」と言われています。さらに、日本人最初の林学博士となり、日本の林学の中心となった人物です。

1891(明治24)年、現在の東北本線 上野～青森間が全通しましたが、冬の厳しい北東北の気候による地吹雪等で再三列車が運休する事態となってしまいました。本多静六氏はドイツに林学・経済学の勉強のため留学していて、1892(明治25)年、日本への帰途、カナダ太平洋鉄道の防雪林を見て、1893(明治26)年、東北線の地吹雪対策に有効と日本鉄道(東北本線を運営)の渋沢栄一氏に鉄道林設置を進言し、1893(明治26)年には本多氏の指導により水沢～青森間の41カ所で一斉に造林が実施され、最初の鉄道林が誕生しました。そして、1902(明治35)年、「鉄道用材並に防雪林」に関する意見書を日本鉄道社長曾我祐準氏に建議し、1942(昭和17)年まで、40年間にわたり鉄道林に関わってきました。

鉄道林と言われてもピンとこない方も多いと思います。雪や風から線路を守るもので、東北や北海道をはじめとして、地吹雪を防ぐため線路の両側に森が続いていたり、雪崩を防いだり、日本海側からの風を防いだり、鉄道会社が線路に隣接する場所に森林を作ったものです。

JR 東日本東北本線(青い森鉄道)野辺地駅に「野辺地防雪原林」として鉄道記念物第14号の記念碑があり公園として整備されているところ、山形新幹線関根～米沢間の

ふぶき防止林(米沢駅付近まで約10km 続いている)、JR 北海道函館本線札幌市内から岩見沢方面に向けて、宗谷本線の沿線など、多くの場所で鉄道林が見られます。地吹雪対策の防雪林は森の中を列車が走っているように感じられても、鉄道林の向こう側は街並みの中という場所も見られます。

370冊余りの著作を残した本多静六氏という人物を調べていると、林学以外の多くの著作に出会います。「私の財産告白」「私の生活流儀」「人生計画の立て方」「本多静六自伝 体験八十五年」など、現在でも参考になり面白く読めるものです。人生計画の奉仕期・楽老期などの生き方、あるいは、「職業の道楽化」の言葉など心に残るものです。いつの間にか、鉄道・森林から人生論・生き方論になってきました。

毎年12月末から1月の初旬にかけて、八王子市長池公園自然館でぽんぽこ鉄道倶楽部が「長池見附橋と鉄道」という展示会を行っていて、長池見附橋とともに鉄道林を紹介しています。



山形新幹線(奥羽本線関根～米沢)関根2号林



JR 東日本 東北本線(青い森鉄道)野辺地駅「野辺地防雪原林」

## ～活動団体紹介～

## 豊ヶ丘の杜保全の会の紹介

### 豊ヶ丘の杜保全の会 会長 神島 浩



#### 豊ヶ丘の杜緑地の概要

豊ヶ丘 2 丁目の住宅の中に残る 1.5ha の広さを持つ里山の雑木林です。貝取神社の裏手を囲うように広がる事から「杜」と呼ばれているのでしょうか。落葉樹林、常緑樹林、竹林からなる植生により稀少植物も多くみられます。ご神木と称しているヤマザクラは樹齢 80 年とも言われ、開花時期の遊歩道からの眺めは秀逸です。山に挟まれた谷には湧水がありサワガニやヤゴも生息する植生豊かな緑地です。

#### 会の生い立ち

2007 年からフレンドツリーサポーターズ (FTS) として八ヶ岳の多摩市民の森での間伐作業と並行して豊ヶ丘の杜の保全活動を行ってきて今年で 17 年目になります。いわゆる団塊の世代を中心に活動を継続してきましたが、ご多分に漏れず会員の高齢化に伴い 2 拠点での活動の運営が年々大変になってきていました。そこでこの 4 月で豊ヶ丘の杜の作業班を分離させ「豊ヶ丘の杜保全の会」として発足しました。多摩グリーンボランティア森木会では一番新しい団体です。

#### 活動への思い

2007 年の活動開始前はアズマネザサに覆われて鬱蒼としていた森でしたが、今では遊歩道沿いの稀少植物観察や森の中を散策される近隣住民の方たちに愛される欠かせない存在になっています。この素晴らしい杜を次世代に継承する為、活動を続けています。活動を通じて幅広い年代の方たちと交流を深めたり植物の名前や保全活動のやり方を学んだりする事も大切に考えています。

#### 活動内容

春から秋は植物の保護・観察を通じて林床整備や遊歩道沿いの下草刈り、秋から冬には竹林や高木の間伐を行っています。材の有効活用として間伐材を杭にして散策路の階段整備や伐採した竹の幹や枝を使って遊歩道沿いの竹策作り、シイタケの原木栽培、他には池の整備、落ち葉掃きなど。近隣の豊ヶ丘小学校で開催されるどんど焼きでは、リヤカーで児童や父兄と剪定枝を運ぶのもすっかり年中行事となっています。

#### 抱えている課題

シラカシなどの高木化により広葉樹エリアの常緑化が進んでいます。また 2020 年に初めて被害が確認されたナラ枯れの影響によりクヌギ・コナラが 3 割も減りました。今年はどれだけ健全木として生き残ってくれるか心配です。私たちはガイドラインで 2m 以上の高さで行う伐木作業を禁止している為、そうした自団体での伐採が出来ない高木や枯れ木などの危険木の対応は市に依頼しています。そうしているうちにシラカシの成長はとても早く、またナラ枯れにより急に発生した空間により林床の植生はあっという間に変わってくるので、私たちで出来る保全活動とは何なのか？を見つめ直す時期にきています。昔から生活に利用されてきた里山なので今も近隣住民の方がタケノコ掘りに来られます。竹林の遊歩道近くは生育が悪いのでどう再生させていくかも課題です。

#### これからの展望

高木化により植生が変わりつつあるので、間伐は市にも協力を頂きつつ自団体での間伐も計画的に行い、植物の保護活動や植樹により景観の維持に努め、散策路の整備にも注力し、樹木や植物への銘板付けを行ったりして、近隣住民にもっともっと楽しんで頂けるような杜にしていきたいです。

サッカーのチームが組めるかどうかという会員数なので、会員間のコミュニケーションがとりやすいのは良いことではありますが作業に追われている状況ですので、一緒に楽しく活動して下さる仲間をお待ちしています。



#### 豊ヶ丘の杜保全の会

活動日： 第 2 土曜、第 4 金曜、その他自主作業  
連絡先：神島 (かみじま) kami.jimah@gmail.com  
または多摩市立グリーンライブセンターまで



～講座イベント紹介～

## 中央図書館植樹&中央公園樹木観察ワークショップ ～中央公園のみどりの記憶をつなぐプロジェクト～

多摩市教育委員会 教育部 中央図書館整備担当課長 萩野 健太郎

このたび多摩市では多摩中央公園の中に「知の地域創造」の拠点となる多摩市立中央図書館を建設し、令和5(2023)年7月1日に無事開館することができました。開館当初から老若男女を問わず非常に多くの方が来館して下さっており、とてもうれしく感じています。

中央図書館の建設工事に際して伐採せざるを得なかった樹木を市民の財産として有効活用するためにスタートした「中央公園のみどりの記憶をつなぐプロジェクト」は、令和3(2021)年4月に樹木伐採起工式を行い、その後も伐採した木材を利用して木工体験や炭やき体験等の体験型イベントを開催してきました。

そして、建設工事終盤の令和5(2023)年3月4日にはパークライフショーの一環として「中央図書館植樹&中央公園樹木観察ワークショップ」を開催しました。当日は春らしい晴天に恵まれ、25名の参加者はGVの皆様によるガイドで多摩中央公園の樹木観察ツアーを行いました。「油がとれる木」や「紙になる木」など、ガイドの熱心な説明に興味深く聞き入っていました。その後、建設工事中の中央図書館の敷地に入り、モクレン・サクラ・ナツツバキ・サルスベリ・モミジの5本の木を植樹しました。完成間近の中央図書館を見ながら、笑顔で植樹作業に取り組んでいる様子がとても印象的でした。コロナによる行動制限の緩和が報道されたことも手伝って、かつての日常が戻ってきた喜びを感じていただけたように思います。

また、令和5(2023)3月下旬には、伐採木のクスノキから制作した図書館家具(テーブル・ベンチ)や木のしおりが納品され、図書館家具を2階に設置するとともに、木のしおりは開館記念品として来館者に配布しました。

中央図書館の整備に際して「伐採」・「木材利用」・「育成」というサイクルで進めてきた本プロジェクトは、これ



でいったん閉幕となります。図書館としては、本プロジェクトの取組を参考に、市内外で様々なみどりの記憶が繋がられていくことを願っています。

最後になりますが、多摩GV 森木会及びGLCの皆様におかれましては、本プロジェクトの実施にあたって様々なご支援・ご協力を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。GLCと中央図書館の互いの利点である「みどり」と「本」は非常に親和性が高いと感じましたので、今後とも連携・協力関係を発展させていければ幸いです。これから公園リニューアルオープンまではしばらく時間がかかりますが、中央図書館にできることがありましたら遠慮なくお申し出ください。ありがとうございました。



多摩中央公園樹木観察ツアー



伐採木のクスノキから制作した児童用テーブル

～多摩市みどりのかわら版～

## 学生時代の経験と今の業務について

多摩市 環境部 公園緑地課 立花 岳史

令和2年4月より公園緑地課に配属いたしました、立花と申します。大学では造園を学び、配属当初から3年間、公園管理業務を主に担当しておりました。今年度からは計画の係にて、開発事業での緑化指導や用地取得、大栗橋公園の改修工事、里山保全地域に関する業務などに携わっております。

大学時代には樹木関係の研究室に在籍しており、川崎市の早野聖地公園内で研究や管理活動を行っておりました。多摩市と同じ多摩丘陵内のため、タマノカンアオイが自生するなど多摩市の緑地ともよく似た環境でした。また、早野聖地公園もアズマネザサやモウソウチクの繁茂する場所が多く、それらの間伐や刈り取り作業が活動の割合の多くを占めていました。竹の間伐では、想像以上に重く倒れる方向も分からない竹の扱いに苦戦し、笹刈りは真夏に鎌で斜面一帯を手刈りするという過酷なものでした。アズマネザサについては、きれいに刈り取っても翌年には元通りになっていたり、生命力を調べるために地下茎を切断して

持ち帰ったところ、節一つ分に切っても発芽するものがあったりするなど、林床を覆いつくす生命力の強さを身をもって実感しました（学年によっては、竹を切る体験を行わずに、山歩きだけで終わったという代もあったようで、私の代は実習を受けられて幸運だったようです）。僅かですが、学生時代にこうした管理作業の大変さに触れることができたのは大きな収穫だったと思っています。

現在は学生時代に学んだことと地続きのような業務に携わることができ、ありがたいと思っております。しかしながら、実際に管理業務に携わると、幅広い要望への対応に加え、ナラ枯れや松枯れ等、対応に専門的で正確な知識を求められるケースもあり、大学で学んだことだけでは到底足りず、この仕事の奥深さを実感する日々です。今後とも、様々な業務に携わりつつ、それらの経験を生かして市内の公園・緑地の管理運営に貢献できるよう努めてまいりますので、よろしくお願いたします。



貝取山緑地で園路舗装工事を担当しました（令和4年度）



豊ヶ丘南公園の池 小さくて見づらいですが、カワセミが飛来しています

### 表紙の絵

#### 「ワルナスビ」絵・内城葉子

花はナスに似て、実はかわいいですが、食べられません。茎も葉の裏、表にトゲがびっしり。地上部を刈っても根は生きていて毎年出てくるので要注意！！

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属>日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書>「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

### 編集後記 ふたつとないもの

おかげさまでグリーンサークルは50号を迎えました。今までお読みいただいた皆様に感謝をいたします。

これからも、グリーンサークルを通して、多摩市のみどりに携わるさまざまな活動をご紹介しますと思います。

どうぞよろしくお願いたします。 (まつ)

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 50 号

発行日：2023 年 7 月 31 日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>